

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇しておりました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。

2019 年第 50 週の定点当たり報告数は 15.62（患者報告数 77,425）となり、前週の定点当たり報告数 9.52（患者報告数 47,200）より増加し、45 週以降流行開始の指標である 1.00 を上回っています。全国的にインフルエンザが流行しております。50 週で報告数が 10 以上（注意報レベルの流行）となりました。

都道府県別では山口県（31.94）、北海道（29.76）、宮城県（26.69）、青森県（24.14）、富山県（24.04）、埼玉県（20.84）、大分県（19.60）、福島県（19.41）、**熊本県**（19.38）、神奈川県（19.17）、新潟県（19.09）、広島県（18.94）、長野県（18.06）、東京都（16.84）、島根県（16.82）、千葉県（16.61）、愛知県（16.53）、秋田県（16.30）の順となっています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近の5週間（2019年第46～50週）ではAH1pdm09（95%）、AH3亜型（3%）、B型（2%）の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>）をご参照ください。

○2019-2020シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況（長崎県感染症情報センター報告より）：

第50週（12/9-12/15）のインフルエンザ報告は、長崎市（16.53）、長崎県（12.13）で、第49週（12/2-12/8）長崎市（7.65）、長崎県（5.74）と比較すると、長崎市、長崎県ともに増加し、いずれも流行レベルの指標1を超えておりました。50週で報告数が10以上（注意報レベルの流行）となりました。

長崎市は、40週、41週、42週と流行レベル（1以上）となりましたが、41週をピークに減少し、43週では1未満となりました。しかしながら、44週では、0.94と再度増加し、45週で1を超えました。

◎長崎県は、39週以降1未満となりましたが、長崎市が40-42週で1を超え、流行レベルとなりました。43週で1未満となりましたが、45週で1を超えました。さらに、50週で報告数が10以上（注意報レベルの流行）となりました。今後より注意が必要な状況になりました。

（長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1部改変）

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。